



市民しんぶん山科区版

9月15号 やましな

区役所HP <http://www.city.kyoto.lg.jp/yamasina/>

これから10年のまちの計画

第1回山科区基本計画策定委員会を開催しました

未来の山科はどんなまち?

策定委員29名
(五十音順・敬称略)



板倉 はるみ



市川 正三



楠本 光生



太田 ハナエ



岡久 美津子



奥田 末子



細田 直文



川嶋 正富



河村 政次



木村 純一



桑原 仁美

山科区役所では、山科区の将来像や目指すべき方向性を示した「山科区フロンティア計画」が平成22年に10年間の取組期間を終了することから、平成23年度から10年間の計画期間とする新たな「山科区基本計画」を策定します。

策定に当たり、これまでは地域の課題などを抽出するため、合同会議の開催や、区民からの意見募集を行ってきました。そして、今年度からは多種多様な分野を代表する方々により構成する「山科区基本計画策定委員会」（委員29名）を設置し、来年度（平成22年度）中の策定に向けて、取り組むこととなりました。

8月6日、京都市東部文化会館において、1回目となる同委員会を催しました。座長に織田直文委員（京都橘大学教授）、副座長に幸田光雄委員（山科区自治連合会連絡協議会会長会代表）が指名され、地域課題と意見の結果の把握、そして委員による意見交換を行いました。本年度は、計4回会議を開催する予定です。

区民の皆さんが主体となった新しい計画づくりが始まっています。

各委員からの意見



- 財政難で新たな都市基盤などの開発が難しい中で、10年前と今とは課題が違うことを認識して修復・修正していくまちづくりへの転換が必要である。
- 山科区にも立派な資源があるが、知名度が低い。山科ナスや文化遺産など、地域固有の魅力や資源を更に周知する必要がある。

- ソフト面では、マナーが悪く、低年齢化している。子どもの教育を根本的に見直し、子どもの住みよい環境をつくるのが大切である。
- マンションの建設により、新たな住民が増えたが、町内会に加入しない人も多い。町内の連帯がなく、災害などの緊急時の課題が大きくなる。

まちづくりに対し、様々な意見が出されました。

- まちづくりのソフト面は、区民の仕事が大部分。昔から住む住民と新しい住民との理想の山科像は違うだろうが、同じ時代を生きる仲間として、違いを擦り合わせ、10年計画を策定していきたい。

問合せ先 区総務課企画広報担当 ☎592-3066

- 地域のコミュニケーションが不足している。イベントなどにも「まず参加」を促し、新旧それぞれの住民、子ども、お年寄りなどのコミュニケーションをつくるのが重要。
- 今回の計画の中で「住み続けたい」「帰ってきたい」という思いにつながる10年後のイメージ作りをし、それを共有できれば。



幸田 光雄



小山 好弘



佐治 俊彦



澤田 清一



朱 まり子



高山 弘



竹之内 貴



田島 宏



谷川 守正



出年 賢治



渡名嘉 玲華



ホタルのすむまち山科。山科のまちをよりよくするため新しい計画をつくろう！



山口 幸秀



山口 好



森 正美



本島 麻美



松本 淳



磯口 文和



羽立 民子

開庁時間延長

第1・第3木曜日は、午後7時まで住民票の写しなどの証明書の発行や、転入・転出に伴う手続きなど一部の業務を取り扱っています。

総務課 ☎592-3065
市民窓口課 ☎592-3094

福祉介護課 ☎592-3218(児童手当・福祉医療)
☎592-3290(介護保険)
保険年金課 ☎592-3105

9月17日
10月1日
10月15日